

取組名称	飯田から「美味しく」「楽しく」脱炭素！
団体名	NPO法人南信州クラブ
代表者氏名	木下 要弥
地区名	

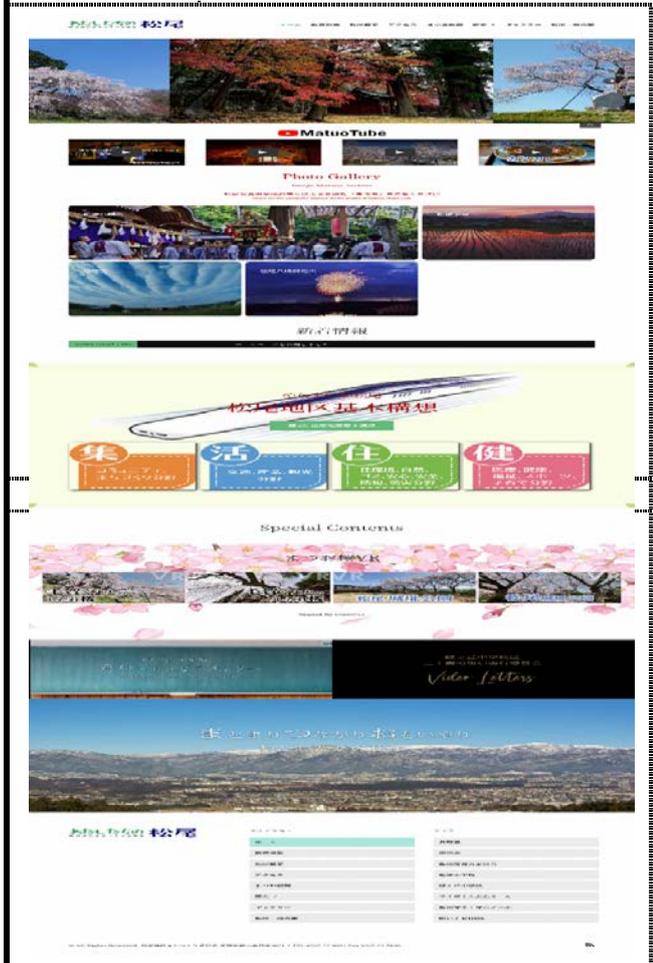
取組みの目的	<p>飯田市において環境意識のさらなる向上と中山間地の振興を図るため対象者を農家・市民を問わず設定し有機農法講習会を開催する。</p> <p>有機農法は想像以上に簡便であり、そのうえ収量増・味覚向上を図ることが出来ることに加え、排出抑制面からではなく吸収面から脱炭素につながることを知ってもらい、その体験を広く市民に伝えてもらうことで飯田市を更なる環境モデル都市へとつなげてもらう。</p> <p>三遠南信道ICのある上久堅を活動場所とし、誘客や遊休農地の再利用を図ることで住み続けられる街づくりのモデルとすることで中山間地の振興を図る。</p>
具体的内容	<p>有機特殊堆肥である土壌改良剤を用いた有機農法の講習会を3回シリーズで開催した。</p> <p>開催場所は上久堅の借用した休耕田。</p> <p>一回目は9/11に施肥・定植・播種方法の講習（生分解マルチの設置方法を含む）。栽培作物は白菜・ほうれん草・大根。マルチは雑草対策。</p> <p>二回目は10/23に土壌改良剤の独特な追肥方法の講習</p> <p>三回目は11/27に収穫及び試食（有機栽培と化学肥料を用いた栽培による同種の野菜の食べ比べ）</p>

説明	講習会一回目の様子	説明	講習会二回目の様子
			
説明	圃場の様子	説明	
			

取組の経過	<p>1回目の講習会には22組30名が参加。雨上がりで土壌がぬかるんでおり畝づくりに苦労した。畝を作ったが土が粘土状になってしまい、土壌改良剤を攪拌することが出来ないことに加え水を通しにくい状態となってしまった。その中参加者は額に汗して播種・定植までの作業を行った。</p> <p>2回目は施肥の講習、一回目の出られなかった参加者もあり24組26名の参加。茎に直接触れさせる追肥方法を学び驚きながら取り組んでいた。</p> <p>3回目は収穫と食べ比べ。20組30名が参加。追肥の効果もあり大きく育った野菜に驚きながらの収穫。食べ比べでは大根はおろしにして試食、ほうれん草は市販のものとそのまま生で試食。有機栽培のものは、大根おろしは辛さの中に甘みがあると実感し、ほうれん草は灰汁がほとんどなくお甘く美味しく食べられ茎が短く葉が肉厚であることを実感した。</p>				
取組の効果	<p>有機栽培は簡便であること。事前に元肥を施したりph調整のために石灰を撒いたりする必要がなく当日施肥を行い直ぐに植付けができることが分かり参加者一同驚いていた。</p> <p>収量増・味覚向上。同種の化学肥料栽培のものとは比べどの野菜も大きく育ち甘みが増すなど味覚が向上。</p> <p>簡単・安全・美味しい野菜づくりがそのままCO₂の吸収が増えることに参加者皆満足していた。回数を経ても参加者が大きく減ることはなくその面からも有意義な講習会であったと感じている。</p>				
今後の取組	<p>来年度も講習会を開催し、今年度実施できなかった夏野菜を対象としたい。胡瓜・茄子・オクラに加えジャガイモも。</p> <p>上久堅地区で有機農法に取り組んでくれる仲間を増やし、その野菜のブランド化（神ノ峰野菜）につなげるとともに、誘客のためにIC近くでの有機農産物販売につなげたい。</p> <p>加えて再来年度はブランド肉牛を開発し地元焼肉屋での提供を図る。</p>				
○取組経費 (単位：円)					
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:60%; text-align: center;">事業費総額（見込み）</td> <td style="text-align: right;">286,761</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">うち助成金（見込み）</td> <td style="text-align: right;">200,000</td> </tr> </table>		事業費総額（見込み）	286,761	うち助成金（見込み）	200,000
事業費総額（見込み）	286,761				
うち助成金（見込み）	200,000				
主な経費内訳 (上位3項目)	農機具借用 68,200				
	備品費（アルミブリッジ） 51,150				
	材料費（農業資材・種・苗等） 109,961				
	広報費（募集チラシ・のぼりばた） 57,450				

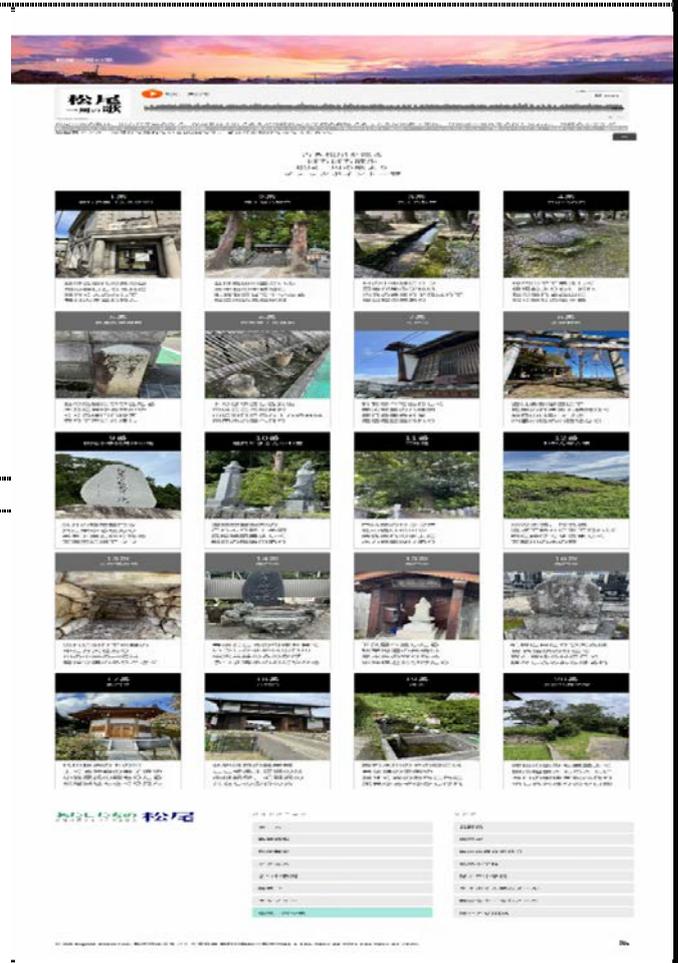
取組名称	松尾地区ホームページ開設
団体名	松尾地区まちづくり委員会
代表者氏名	鋤柄 富男
地区名	松尾地区

取組みの目的	<p>松尾地区の活動や情報を住民に共有するとともに、松尾地区の情報を発信するためにホームページを立ち上げる。 ホームページが地区住民の活動成果を発信する場の1つとすることで、地区住民の活動が活発になるとともに、それを通じて地区住民同士や地区外の方とのつながりが広がるきっかけとなるツールにする。 さらに、20地区応援隊によるふるさと納税の増収についても貢献したいと考えている。</p>
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ○松尾地区内の方への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり委員会等の松尾地区の活動情報の掲載 ○松尾地区外の方への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・観光、イベント情報等 ○松尾地区住民の活動の記録・発信の場 <ul style="list-style-type: none"> ・まつお新聞のアーカイブ ・地区住民が撮影した写真等の活用



説明

トップページ



説明

一般ページ

取組の経過	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局との飯田コアカレッジと開設に向けて打ち合わせ ・企画会議、関連部会での協議、打ち合わせ
取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾地区では松尾地区まちづくり委員会が中心となり、第3次松尾地区基本構想を推進している。リニア時代に向け、新時代の地域コミュニティを創造していく中で、地域内外への発信を強化し、積極的な地域活動に関わる人を増やしていく。さらに、ホームページを活用して松尾地区の情報を共有できるようにし、情報の簡素化を行い、わかりやすくしていく。 ・地区住民の活動が掲載され、情報が広がることで、地区住民の主体的な活動の活性化につながる。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾地区の組合活動に関心を持ち理解してもらい、組合加入率の上昇につなげる。 ・松尾地区の魅力を発信し、松尾地区に想いを寄せていただいている方からの協力や居住したいと思う方の増加につなげる。 ・地区住民にとって身近な情報を掲載し、持続可能なホームページ運営をしていく。

○取組経費 (単位：円)

	事業費総額 (見込み)	483,912
	うち助成金 (見込み)	150,000
主な経費内訳 (上位3項目)	一般ページ構築	240,000
	トップページ構築	120,000
	サーバー初期設定	30,000

取組名称	遊休農地でブルーベリー栽培を行います
団体名	NP0法人飯田ブルーベリー振興会
代表者氏名	清水 實
地区名	川路

取組みの目的	<p>昨年からブルーベリー振興と遊休農地の解消のため、新たにブルーベリー栽培希望者を募り、遊休農地で栽培を始めています。果実を収穫できる時期は3年目からですが、事前に鳥による食害を防止する装置を設置しなければなりません。よって令和4年度はこの防鳥装置と駆動用バッテリーの購入が目的でした。</p>
具体的内容	<p>昨年度から「遊休農地でブルーベリー栽培を行います」というテーマで行っており今年度は2年目となります。ブルーベリー栽培においては、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ等の鳥による食害があります。対策として、従来の農園では防鳥網の設置によって行ってきました。しかし、この装置の設置には、自分たちで設置する場合には危険が伴う作業となり、専門業者に依頼する場合には高額となっていました。よって今年度は、費用が安価である音によって防止する装置を購入しました。また、植付したブルーベリーの管理作業は補助対象ではありませんが行ってきましたので、添付写真をご覧ください。</p>



説明

防鳥装置



説明

防鳥装置と駆動用バッテリー



説明

木材チップ拡散作業



説明

植付2年目の秋の様子

取組の経過	<p>令和4年7月 業者に防鳥装置の購入依頼 令和4年8月 業者が装置を持ち込み来園、実演にて説明を受ける 令和4年9月 駆動用バッテリーを購入 令和4年10月 バッテリーで防鳥装置を駆動して再度動作確認 令和4年10月 ブルーベリー通信発行（この通信は年4回作成して地元に戻覧）ホームページでも見ることができる。 令和4年11月 事業の纏め、今後の課題検討</p> <p style="text-align: right;">ブルーベリー通信のQRコード</p> 
取組の効果	<p>ブルーベリーの果実は6月初めから収穫出来るようになりますが、今回の事業で植えた苗は昨年植えたものであり小さいために防鳥効果の確認は来年以降になります。鳥は花が咲き始める4月頃から飛来して、小さい果実が付き始める5月、実が熟す6月から8月に害となります。装置業者の説明によりますと、防鳥効果が得られるようにするには4月から駆動させる必要があります。よって、令和5年4月から駆動して、5月から効果の確認を行います。</p>
今後の取組	<p>前述したように購入した装置の駆動と効果の確認は令和5年以降となりますので、今後の取組となります。一方で果実は少しずつ採れるようになりますが、畑の隣は柿畑となっており、その果実の消毒が数回行われることが分かってきました。よってその消毒による薬害を対策しなければなりません。対策案として、柿畑との境界に新たにブルーベリーを植え付けて、背を高く育て、その木で消毒剤が降りかかる事を防止する案を考えています。</p>

○取組経費 （単位：円）

	事業費総額（見込み）	169,480
	うち助成金（見込み）	109,000
主な経費内訳 （上位3項目）	防鳥装置	165,000
	駆動用バッテリー	4,480

取組名称	かわらんべの体験学習活動を自主企画で応援 ～生きる力を伸ばすお手伝い～
団体名	天竜川の水辺の活動を支援する会
代表者氏名	代表 今村 公人
地区名	川路／天竜川総合学習館 かわらんべ

取組みの目的	<p>天竜川総合学習館かわらんべ周辺の水辺に集う子どもたちの学習活動のベースとなる「基盤づくり活動」を通じて、学びの質や楽しみの幅を広げてもらうことを目的とする。</p> <p>かわらんべだけでは難しい、ボランティア型事業をイベントとして実施し、将来の人づくりに貢献する。様々な大人と交わる学習を通じて、家族や学校間だけでは体験することが難しい（地域の）コミュニティ力を学んでもらう。（自己肯定感の醸成）</p>
具体的内容	<p>■かわらんべ講座中「自然（身近な植物や自然の材料で工作）及び防災」をテーマとした学習講座の支援 & 会員の資質向上に寄与する活動</p> <p>➢かわらんべスペシャルDay（講座：7月30日（土）開催）の「水鉄砲」「フォトフレーム」「しおりづくり」などを独自に企画（チラシ作成）し、当日運営する。</p> <p>➢会による企画提案づくり（夏休みの新たな講座メニュー開発等）に向けた、自己研修事業の実施</p> <p>■かわらんべ周辺の樹木の整枝及び景観の保持に繋がる活動 & かわらんべ周辺の小さな自然維持及び再生に向けた環境整備活動</p> <p>➢環境整備立木伐採等専門作業の実施、学習フィールド場内整備、植生の回復</p>



説明 年間事業打合せ（全員協議会）



説明 7/6 ダム機能と防災自主研修



説明 7/30夏休み学習支援イベント215人



説明 1月末学習フィールド整備・樹木伐採

取組の経過	<p>【会の設立】 天竜川総合学習館かわらんべ周辺の水辺に集う子どもたちの、学習活動のベースとなる「基盤づくり」を支援する（縁の下の力持ち）ことで、学びの質や楽しみの幅を広げてもらうよう、令和4年3月14日設立する。（発足時メンバー30人） 令和4年3月14日 設立総会にあわせ令和4年度の事業概要確認 令和4年4月16日 代表、副代表、事務局会議（事業の進め方協議） 令和4年5月28日 代表、副代表、事務局会議（夏休み学習支援講座協議） 令和4年6月5日 年間実施項目確認、夏休み支援講座開内容決定、チラシ原案作成 令和4年7月6日 会員による研修視察（ダム機能と水防災）実施（マイクロ：21人） 令和4年6月24日 川路、龍江、竜丘各小学校に夏休みスペシャルDayのチラシ配布 令和4年7月30日 夏休みスペシャルDay（学習支援講座）主催 令和4年8月11日 かわらんべ講座（盆ごぞづくり）協力 令和4年12月3日 環境整備、樹木伐採協議（男性会員） 令和5年1月末 かわらんべ前樹木伐採等実施（会員他協力者16人） 令和5年3月11日 事業完了報告、次年度計画（総会）予定※子ども達とワラビ植え</p>
取組の効果	<p>◎強力な支援者組織（元気なおじちゃん、おばちゃん達）により、自由な発想で楽しいプログラム提案が可能となり「夏休み期間中の体験講座」の幅が広がった。かわらんべスペシャルDay開催（講座：7月30日（土）） ◎令和4年3月に、新規発足した会であることから、今後の学習支援に向けて、組織力を付けるため、日帰りでダム機能学習と水防災研修視察を実施した。（7月6日実施）天竜川上流河川事務所からも、期待を寄せられることとなった。 ◎環境整備に精通した会員の応援により、学習フィールド内の混雑した立木伐採が進み、本来の学習環境を取り戻す起点となった。1月下旬に伐採した立木は、フィールド内の丸太椅子、きのこ栽培学習用の原木などに活用される。</p>
今後の取組	<p>◎組織として発足1年目であり、本年度中は手探りの期間と位置付ける。今後、かわらんべ事業への更なる支援に取り組みますが、行政関係だけではやりづらい活動もあることから、これらの隙間を埋めるような事業立案にもチャレンジします。（一例：防災学習のための「夏休みバスハイク企画」や「天竜川子ども河川パトロール企画」など） ◎夏休みお楽しみイベント（かわらんべスペシャルDay（講座））の継続開催 ◎子どもたちの研究成果を館内展示する時の支援（クリスマスリースや押し花等の学習展示、伝統の保存食「たくあん漬け」解説など）などにも積極的に関わりながら、元気な「おじちゃん・おばちゃん」パワーで、情報発信に一役買います。</p>

○取組経費 （単位：円）

	事業費総額（見込み）	300,000
	うち助成金（見込み）	210,000
主な経費内訳 （上位3項目）	学習体験フィールド整備費（立木剪定、植生環境整備）	100,000
	夏休み応援イベント企画費（テント等熱中症対策）	100,000
	防災学習支援スタッフ研修費（マイクロバス借り上げ）	70,000
	事務、作業用費	30,000

取組名称	野池神社御柱式年祭伝承事業
団体名	千代地区まちづくり委員会
代表者氏名	会長 関口 俊博
地区名	千代

取組みの目的	<p>令和4年4月10日に開催した信濃の国ノ宮野池社諏訪神社の壬寅御柱式年大祭において、御柱祭を後世に引き継ぐため、式年祭を映像に記録する。</p> <p>御柱祭は七年に一度の行事のため、毎年行う行事と違い、前回はどのように行ったかが、記憶の片隅に追いやられ、思い出すのも一苦勞となる。また、コロナ禍の中での開催となり、様々な制約がある中での式年大祭を映像に残すことにより、次回の御柱祭に携わる方々の参考になるように詳細にわたり記録した。</p>
具体的内容	<p>○御柱祭の映像を記録する専門家に撮影、編集、記録媒体のディスク作成</p> <p>○御柱祭の安全祈願祭、男木・女木の曳行及び建御柱、式典までを記録</p>



説明

祭当日の様子



説明

祭当日の様子



説明

作成したDVD



説明

作成したDVD

取組の経過	令和2年度、令和3年度 日程等を決定し、コロナ禍での開催に向けて準備を進める。 4月10日 式年大祭撮影 この間、記録映像の編集 7月14日 記録映像の完成
取組の効果	○今回の御柱祭を映像に残すことにより次回の御柱祭に役立てる。 ○千代地区全体の行事との位置づけられる野池神社の御柱祭を映像記録に残すことにより、地区の活性化にもつながる。
今後の取組	○今後の取組としては、次回への御柱祭へつなげていく。

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	200,000
	うち助成金	140,000
主な経費内訳 (上位3項目)	御柱祭記録映像一式	200,000